

佐賀大、海洋エネルギー研究所

在京太平洋島しょ国大使グループ等が視察



久米島サテライトOTEC施設での集合写真(右から8人目:児玉学長)

在京太平洋島しょ国大使グループのテヴィタ・スカ・マングシ駐日トング王国特命全権大使、ジョン・フリッツ駐日ミクロネシア連邦特命全権大使、アレクサンダー・カーター・ビング駐日マーシャル諸島共和国特命全権大使、ヘレン・ロイ・タヌヴァサ・チヨウ・リー駐日サモア独立国臨時代理大使等の6カ国計13名が10月31日、佐賀大学の海洋エネルギー研究所久米島サテライト(I O E S)を視察した。

同視察は、海洋温度差発電(OTEC)技術の開発・展開における支援と調整を目的としている。OTECは、クリーンエネルギーとして脱炭素化の推進のため、7月18日に開催された第10回太平洋・島サミット(PALM10)の共同行動計画でも「導入を検討する」とされた注目されている技術である。

同視察には、三谷将大外務省国際協力局国別開発協力第

一課企画官、笹川平和財団海洋政策研究所の塩澤英之島しょ国・地域部長、柳澤好治文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課長ら関係者も同行。同大からは、児玉浩明学長、豊田一彦研究・社会連携担当理事、三島伸雄国際担当副学長、池上康之海洋エネルギー研究所長ら計12名が出迎えた。I O E Sでは、池上所長からOTECの仕組みや概要説明とともに発電所を案内し、ランチレセプション後、発電に利用した海洋深層水を複合利用した海ぶどう等の養殖場などを視察。またレセプションでは久米島の伝統芸能を披露し国際交流の場となった。

同大では、50年以上にわたってOTECに取り組み、2013年に久米島で世界初の長期実証研究に成功。OTECの技術は、発電に利用した海洋深層水を複合利用できることが大きな特徴で、発電に加えて海洋深層水を利用した産業と海水淡水化研究事業とも組み合わせた「久米島モデル」には世界70カ国以上から視察者が訪れている。

女子中高生の理系進学支援

佐賀大、リケフェス'24開催

佐賀大学は10月27日、科学技術振興機構(JST)令和6年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」事業で採択された「継続・育成型STEAMガールズコンソーシアム」による「女子中高生のための今知りたい!理系進学で広がる未来リケフェス2024」を同大で開催した。今年度は、こ



実験体験会

れまでの4機関(佐賀大学・西九州大学・長崎国際大学・佐世保高専)に新たに久留米工業大学が加わり、5機関合同で実施した。リケフェスは、シンポジウム(基調講演・トークセッション)、学校別相

談会、実験体験会を通して、将来の進路選択について考え、理系分野への親しみをもちてもらうことを目的としている。今回、保護者を対象とした新企画として、本音で語り合う「進路いろいろカフェタイム」も実施。中学生60名、高校生38名、保護者・教育関係者等45名、関係者スタッフ58名の計201名の参加があった。

基調講演では、「理系・文系 あなたは何系?」考えること、疑うこと、楽しむこと」と題して、神戸佳子氏(東海大学児童教育学部特任教授)が講演を行った。数学は「疑うこと」が大切であること、また「中高生の皆さんが進路を考える時、いろいろな理由があるだろうけれど『楽しむこと』を忘れないでほしい」とのメッセージがあった。

トークセッション「見つけて私のロールモデル!」では、荒木薫ダイバーシティ推進室副室長がファシリテーターとなり、各大学・高専の女子学生5名、神戸氏とともに意見交換を行った。実験体験会では、各大学から興味深い6つのブースが開設され、また「進路いろいろカフェタイム」では保護者等20名の参加があった。